

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：平成30年 4月 1日

事業所名 社会福祉法人幸知会 トータスジュニア築瀬

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は 改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		パーティションの利用で、運動と学習のプログラムを区別化。	
	②	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		リーダーとフォローで役割を区別し個別対応も随時できる。	
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされているか	<input type="radio"/>			
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	<input type="radio"/>		毎回のスタッフ会議及び、毎日のフィードバック会議で、問題を早めに解決していく。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<input type="radio"/>			
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	<input type="radio"/>			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげているか		<input type="radio"/>		月一回部門会議において、本部部長及び、事務長及び外部関係者の意見評価をもとに業務改善につなげている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	<input type="radio"/>		毎週一回行い評価システムを作ってリーダー認定評価を実施している。	

適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			初回及び定期的に面談を実施する。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			療育会議としてスタッフの意見を取り入れたカンファンスを実施している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		利用児童の様子で楽しめるよう、常に変化できる体制にしている。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		午前・午後の内容及び、時間配分、平日の到着時間の違いに対応できる内容にしている。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		個別計画の中に集団プログラムの内容を組み入れそれぞれの特性に応じた計画にしている。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		朝礼等で療育のポイント連絡事項を話し合っている。	
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		記録後に気づいたてんを話し合い改善することはすぐに改善できている。		

	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	<input type="radio"/>			
	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>			
	⑲	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>			
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>			
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		市・町保健師からの情報や相談をいただき連携して支援を行っています。	
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	<input type="radio"/>		母親を通じて医療的ケアを受けている。	
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>			
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		利用開始時及び送迎時に、学校への声掛け情報収集を行っている。	
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>		研修への参加をしている。	

⑳	<p>保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある</p>	○			
㉑	<p>(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している</p>	○		<p>地域への子育て等の手ベント参加。</p>	
㉒	<p>日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている</p>	○		<p>送迎時にこどもの様子を伝えている。</p>	
㉓	<p>保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている</p>	○			
㉔	<p>運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている</p>	○		<p>契約時のみならず毎月の請求書手渡しをして説明している。</p>	
㉕	<p>児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている</p>	○		<p>早めに計画を立案できるよう、体験時に1対1で面談を実施し情報を得ている。</p>	
㉖	<p>定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている</p>	○		<p>モニタリング時に関わらずお子様の様子で気になるときは、すぐに母親への声掛けをしています。</p>	
㉗	<p>父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している</p>	○		<p>。</p>	

③⑤	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談の受理は児発管のみならずスタッフ全員がいつでも受けられるよう人材の確保と教育を実施している。	
③⑥	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		個別写真にて毎回ごとに写真を提供している。	
③⑦	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報保護法に基づき承諾を得て対応している。	
③⑧	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者からの写真の顔出しに関して、配慮が必要な希望の方に顔を隠して発信している。	
③⑨	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		法人本部の行事、および複合型施設としてのイベント等に参加協力していく。	
④⑩	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		緊急対応、防犯防災、感染症対策はマニュアルに沿って定期的に研修を実施しています。	
④⑪	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災訓練は、火災・地震を想定した訓練を行っている。	

⑫	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		初回相談時に確認している。	
⑬	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
⑭	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハット勉強会を実施し、些細なことでも気づくようスタッフの訓練を行ってまいります。
⑮	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待に関する勉強会を実施している。	
⑯	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		基本的に拘束ゼロの対応で考え保護者との連携をたいせつにしている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。